

明治時代から戦前までの間、山梨県の発展に貢献した人物、国内外で活躍した山梨ゆかりの人物



わかおい いてい
若尾逸平
(1820-1913)

南アルプス市生まれ。甲州財閥の中心人物。天秤棒から身を起こし一代で東京の電力や市電を支配するほどの財を成す。第十国立銀行(山梨中央銀行の前身)の取締役や初代甲府市長、県内初の貴族院議員となり活躍した。

山梨中銀金融資料館蔵



ね づ かい ち ろ う
根津嘉一郎
(1860-1940)

山梨市生まれ。甲州財閥の一人。東武鉄道など全国の鉄道会社経営に関わり「鉄道王」と呼ばれた。文化振興にも大きく貢献し、山梨県内の全小学校にピアノを寄贈。「根津ピアノ」の愛称で、今も親しまれている。

東武博物館提供



はやかわのりつぐ
早川徳次
(1881-1942)

笛吹市生まれ。ロンドンで地下鉄事業を学び、東洋初となる地下鉄の“生みの親”となる。生涯を懸けて挑んだ地下鉄は発展を続け、首都の大動脈・東京メトロとして、今も多くのの人々を運んでいる。

個人蔵



ふじむら し ろ う
藤村紫朗
(1845-1909)

熊本県生まれ。14年間、山梨県の県令(県知事)として、県営勸業製糸場建設、葡萄・葡萄酒生産の振興、甲州街道の改修など殖産興業を推し進めた。教育にも力を注ぎ、擬洋風建築の校舎は「藤村式」と呼ばれている。

山梨中銀金融資料館蔵



たかのまさなり
高野正誠(左) (1852-1923)
つちやりゅうけん
土屋龍憲(右) (1859-1940)

甲州市生まれ。国産ワインの礎を築いた。日本初のワイン醸造会社「大日本山梨葡萄酒会社」が設立された年、フランスに留学し、本場の葡萄栽培法・葡萄酒醸造法を学び、帰国後、普及に努めた。

甲州市提供



あめみや けい じ ろ う
雨宮敬次郎
(1846-1911)

甲州市生まれ。甲州財閥の一人。明治の文明開化の中で常に時代の先を読み、鉄道や製鉄業などの経営に手腕を振るい、甲武鉄道(現・JR中央本線の一部)の取締役となる。また、国の発展のために社会的事業にも取り組んだ。



こばやし い ち ろ う
小林一三
(1873-1957)

葦崎市生まれ。阪急グループ創設者で、鉄道を拠点とした都市開発モデルを生み出した。阪急電鉄をはじめ、日本初のターミナル・デパートや東宝映画、宝塚歌劇団など数々の事業を立ち上げた。

阪急電鉄株式会社提供



いしばし たんざん
石橋湛山
(1884-1973)

東京都生まれ。幼少期から高校時代を山梨県で過ごした。戦後、衆議院議員となり第一次吉田内閣で大蔵大臣、第一次鳩山内閣では通商産業大臣を務める。1956(昭和31)年には第55代内閣総理大臣に就任した。

石橋湛山記念財団蔵



ないとう たちゅう
内藤多仲
(1886-1970)

南アルプス市生まれ。建築構造技術者・学者。東京タワー、大阪通天閣、名古屋テレビ塔など、多くの塔を設計し、「耐震構造の父」「塔博士」と呼ばれた。山梨県庁本館や県民会館の設計も手掛けた。

個人蔵



おがわまさこ
小川正子
(1902-1943)

笛吹市生まれ。ハンセン病患者救済に生涯をささげた医師。瀬戸内海に浮かぶ小島のハンセン病療養所「長島愛生園」で7年間を過ごし、体験記『小島の春』を著した。同著は、のちに映画化され大ロングランとなった。

笛吹市教育委員会提供



あさかわ たくみ
浅川 巧
(1891-1931)

北杜市生まれ。日本と朝鮮の架け橋となった林業技師。朝鮮半島に渡り、伐採により荒廃した山野の緑化に取り組みながら、朝鮮の工芸品の研究や保存にも尽力するなど、朝鮮文化をこよなく愛した。

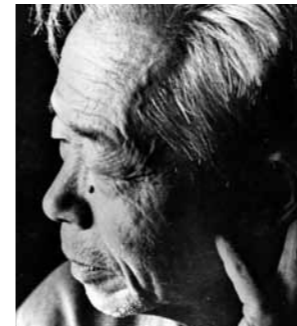
写真提供 北杜市浅川伯教・巧兄弟資料館・浅川文彦



ポール・ラッシュ
(1897-1979)

アメリカ合衆国・インディアナ州生まれ。来日後、高冷地・清里に農村センターを設立し、戦後日本の農村を復興へと導いた。創設したキープ協会は、清泉寮を拠点に、今もさまざまな活動を続けている。

©(公財)キープ協会/ポール・ラッシュ記念館



なかむらせいこ
中村星湖
(1884-1974)

富士河口湖町生まれ。富士山麓の自然を舞台に2人の少年の友情と成長を描いた『少年行』をはじめ、地方色豊かで質朴な作品を世に送り出した。自然主義作家として、郷土の文化を深く見つめ直し、その向上にも尽力した。

山梨県立文学館蔵



いとう
伊藤うた
(1868-1934)

葦崎市生まれ。私財を投じて甲府に山梨実科高等女学校(大正14年、甲府湯田高等女学校と改称。現・甲斐清和高等学校)を開校。山梨の女子教育の基礎を築き、数多くの人材を輩出した。

伊藤学園甲斐清和高等学校蔵



いいだこつ
飯田蛇笏
(1885-1962)

笛吹市生まれ。近代俳句界を代表する俳人。故郷山梨で数々の格調高い句を詠み多くの文化人を魅了した。作家・芥川龍之介とも作品を通して深い交流があった。「芋の露 連山影を 正しうす」は代表句の一つ。

山梨県立文学館蔵



むらおかはなこ
村岡花子
(1893-1968)

甲府市生まれ。モンゴメリの名作を翻訳した『赤毛のアン』など、欧米家庭文学を日本に紹介し、多くの人に夢と希望を与えた。ラジオの子供向けニュース番組に出演したり、童話や随筆、短歌など数多くの作品を世に残すなど、幅広い活動をした。

写真提供：赤毛のアン記念館・村岡花子文庫

山梨近代人物館

— 山梨県庁舎別館2階 —

昨年4月、県指定有形文化財である県庁舎別館内にオープンした「山梨近代人物館」では、明治時代から戦前までの間に、山梨県の発展に貢献した人物、国内外で活躍した山梨ゆかりの人物を紹介しています。また、紹介する人物に関連した講座を月1回程度開催します。

- 第3回展示 「近代山梨を築いた人々」
展示期間:平成28年4月~9月
- 第4回展示 「日本の文化を興した山梨の人々」
展示期間:10月~平成29年3月

館内には、竣工当時の内装を復元した旧知事室や正庁、県政の歴史展示、子ども向け展示などもあります。



山梨県庁舎別館



人物紹介室

■開館時間
午前9時~午後5時

■休館日
第2・4火曜日/12月29日~1月3日
※展示替え作業などに伴い臨時に休館することがあります。

■入館料：無料

■問い合わせ先：山梨近代人物館
TEL 055-231-0988
FAX 055-231-0991



旧知事室

山梨近代人物館